

## 平成26年度第1回トータルヘルスケアワークショップ・フィールドワークを開催しました



8/27～29 に平成26年度第1回トータルヘルスケアワークショップ・フィールドワークを開催いたしました。今回は平成26年度になって1回目、通算2回目となります。今回は、新潟大学医学部医学科・保健学科、歯学部歯学科・口腔生命福祉学科、新潟薬科大学薬学部薬学科から13名の学生が参加しました。

1日目は、ワークショップを開催しました。

まずはアイスブレイキングとして、「今まで最も心に残った学習」をテーマに、各自絵を描いてもらい、各班内で説明をしあった後、発表者が班全員の絵を紹介しました。次に「超高齢社会」について、KJ法を用いて問題点の抽出を行いました。各班とも、老老介護、ケアの担い手不足、原資不足、医療施設不足など、様々な視点から問題点を抽出していました。



午後からは、歯科の黒川先生から口腔ケアの重要性について、鈴木翼先生からソーシャルキャピタルについて、ミニレクチャーがありました。

その後、翌日のフィールドワークの目標について、一般目標と行動目標をたててもらいました。

2日目は、新発田市の豊浦病院、阿賀町の県立津川病院・東蒲の里、上越市柿崎区のおねやまの里、上越市牧区の牧診療所・沖見の里の4地区に分かれて、口腔ケアをテーマにフィールドワークを行いました。各班とも口腔ケアについてのレクチャーを受けたり、嚥下体操を一緒に実演したり、食事介助を間近で見学させていただいたり、有意義な体験実習を行うことができました。



3日目は、ワークショップとして、前日のフィールドワークもふまえて超高齢社会の最優先課題を二次元展開法を用いて抽出し、その最優先課題に対する対応策を検討してもらいました。各班からは、在宅医療、介護のそれぞれ異なる最優先課題が抽出され、様々な対応策が出されました。

その後今回のトータルヘルスケアワークショップ・フィールドワークの感想をレポートにまとめてもらいました。最後に、参加者に修了証が手渡され、無事終了しました。



参加した各医療系学生のモチベーションは高く、非常に活気のある密度の濃いワークショップ、フィールドワークとなりました。今回も詳細は報告書にして、ホームページに掲載する予定です。